

第24回門司港 SWIM&RUN

野村 高広

3年ぶりに開催された門司港 SWIM&RUN。私は10回目の出場だ。テキトーにトレーニングしていたので、テキトーにそれなりのいいタイムになるかと思ったが、残念ながらワースト記録だった↓。

さて、玄海からはボランティアとして、小園夫婦、出口、松本、森、馴松(敬称略)、選手としては、野崎、千々和、河原、野村(敬称略)が参加した(公式パンフレットより)。高濱君は今回も招待選手。藤川さんもボランティアされていたようだが、公式パンフレットには名前がなかった。もし、他にもおられたのならご容赦ください(選手でお一人、玄海の方がおられましたが名前がわからず。判明次第、記事を差し替えます。)

今回、私はスタート前の「エイエイオー」の音頭を取らせてもらった。例年同様、今回も入水チェックが遅れ、選手全員が入水したときは定刻(10時スタート)を2分も超えていた。9時59分に私の音頭が回ってきたら、10時スタートに間に合うような短いセリフにしようと考えていたが、もう既に超過しているので、予め用意していた90秒のセリフをぶちまけた!セリフは以下の通り。

注目!私は遙々、大阪からやって来ました野村と言いまーす。

(大阪から来たのは28年前だが)

選手の皆さんに尋ねる。

体調は万全か?(オー) 気合いは十分か?(オー)

3年振りの、この大会を楽しみにしていたか?(オー)

20代30代の選手に尋ねる。

大会事務局、ボランティアに感謝の気持ちを持っているか?(オー)

40代50代の選手に尋ねる。

まだまだ若い者には負けていないという気持ちを持っているか?(オー)

女性の選手に尋ねる。

毎日の肌の手入れより、毎日の練習を大切にしてきたか?(オー)

最後に、60代70代の先輩方、明日60歳になる松下さん、最高齢84歳の古賀先生、

あなた方は我々アスリートの誇りであり、自慢であり、憧れであります。

いつまでもお元気で、来年も是非、この会場でお会いしましょう。

それでは、フィニッシュ目指して、エイエイオー!

なかなか、堂々と、偉そうに、のたまうことができた。

ながーいセリフだったが、水温が高く、フローティングの選手からは寒いのが早くスタートして欲しい、といった否定的なネガティブな空気は流れていなかったようなので、良しとしよう。

さて、玄海 TC (エリアゲンカイ) ではなく、私がチーム代表を務めている、限界 AC (リミットゲンカイ) から参加していた渡邊は飛び込んだ時にゴーグルが外れ海底に沈んでしまったため、ゴーグルなしで泳いだ。トランジションで一緒になったとき目が真っ赤になっていた。その日、彼は一日中、目薬を差していた。

私は、エイエイオーの後、足から飛び込んだが左耳に激痛が走り、鼓膜が破れたのかと思った。泳いでいる間、ずっと激痛が走っていた。

なおかつ、海のうねりがひどく、波酔いで気分が悪くなり、1周回目を終えたときに棄権しようかと考えながら泳いでいた。何とか気持ちを奮い立たせ2周回目に臨んだが更に気分が悪くなり、もう、勇気ある棄権をしようと思った。

上陸して耳栓を外そうとして耳栓に触れたら、激痛が走って取れなかった。シャワーのところに森さんがいたので外してもらおうと考えたが、「耳栓ぐらい自分で外しなさい」と彼が他界するその日まで言われそうなので、自分で何とか外した。実は飛び込んだ時の勢いで耳栓が奥に入り込んだようで耳栓を外したら痛みは治まった。

波と耳痛から解放されたら、気分がよくなったので、勇気ある棄権を優柔不断な続行に変更した。トランジションでは必要以上にしっかり休んで（体を拭いて、靴下をはき、靴紐を結びなおし、お隣さんと会話して）ランスタートした。

ランはそれなりのスピード（キロ5分ぐらい）を保ち、フィニッシュを迎えることができた。いつもそうだが、終わってみれば、楽しい大会であった。

